CHIYODA Creative ART Lab for Children

千代田クリエイティブ・アートラボ

金田　卓也　教授
（家政学部　児童学科）

はじめに

私の専門分野は芸術教育ですが、これまで、＜もの作り＞の活動を通して子どもたちの創造性を豊かにする可能性を探ってきました。大学の授業では、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を目指す学生たちに造形活動の教育的意義についての理解を伝えるとともに、学生たちも自分自身の作品を制作しながら実際に子どもたちとどう関わっていくべきか学んでいます。

学生たちは、卒業後、保育園、幼稚園、小学校で子どもたちの造形活動と関わるわけですが、教育の場というものは保育園、幼稚園、小学校に限られるわけではありません。子どもたちはさまざまな大人と関わりながら、いろいろなことを学び成長していきます。ひと昔前であれば、子どもたちは近所のお姉さんの手編みのやり方を見よう見まねで覚えたり、大工さんの仕事場を覗き込んでノコギリの使い方を学んだりしていました。そうした子どもたちの＜もの作り＞の環境を大学でできればと考えていたところ、今回、地域連携プロジェクトのひとつとして実現することができました。何かを教えるという教室ではなく、アトリエや工房や実験室のイメージに近く、千代田クリエイティブ・アートラボと名付けることにしました。

夢やアイデアを形にする

千代田クリエイティブ・アートラボでは、地域の子どもたちに大学に来てもらい、保育や教育を専攻する学生たちとともに「こんなものが作りたい」「こんなものがあったらいいな」という子どもたちひとりのひとりの夢やアイデアを具体的な形にするための素材と場所を提供しています。千代田キャンパスの造形表現室で月 1～2 回、木曜の放課後 16:00 から地域の子どもたちが数名ずつ集まってきます。普段、家庭や学校では手に入れることの難しいさまざまな素材と出会えることと、安全を配慮したスタッフと一緒にのこぎりやグルーガンなどの道具も使用することができるということも参加した子どもたちにとっての大きな魅力になっています。

子どもたちの自由な発想

『子どもは誰でもアーティスト。大人になってもアーティストでいられるかどうかが問題だ』と言ったのはスペインの画家ピカソですが、千代田クリエイティブ・アートラボでは、子どもたちの豊かなイマジネーションと感性を大切にしながら活動を続けています。参加している子どもたちの自由な発想にはいつも驚かされています。

大人である私たちこのラボの運営スタッフも子どもたちの自由な創造力に負けないようにいつも心がけています。最近の子どもたちは、家庭と学校以外で大人と直接関わる機会はあまり多くないといえます。その意味では、このアートラボは参加する子どもたちにとっては、スタッフとして関わっている教員ばかりではなく、大人である学生たちと直接話をしたりする機会となっています。

一方、卒業後は保育士や教員となって子どもたちと関わる職業を目指す学生たちにとっても、実習とは別に子どもたちと交流できる貴重な機会となっています。参加した子どもたちは作りたいものの

ことだけではなく、最近あった出来事などいろいろなことを話してくれます。

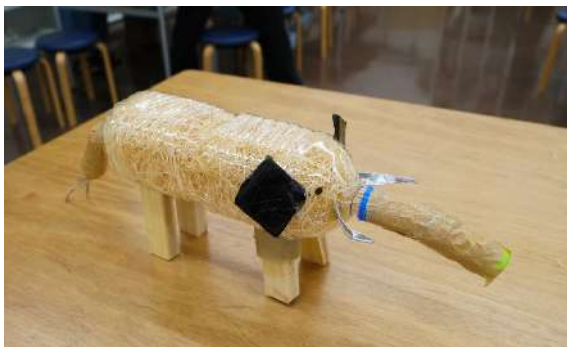
さまざまな大人と関わる―地域の教育力―

このアートラボを子どもたちにとって真剣に話を聞いてくれる大人のいる場所にしたいと考えています。なぜなら、地域の持つ教育力というものは、学校だけではなく、子どもたちがさまざまな大人と出会えるところにあると考えているからです。子どもたちのアイデアを形にする、学校でも習い事でもない、ゆったりとした時間の流れるそんな場所にしたいという目的も十分に達成できたように思います。

このアートラボに毎回のように参加している小学５年生の男の子が、学校の図工の時間も楽しいけれど、図工は授業なのでやることが決まっているのと違って、ここではなんでも好きなものを作ることができると話していましたが、子どもたちの自由な発想や考えを尊重しているこのアートラボの趣旨をよく理解しているといえます。

送り迎えに来る保護者の方からも、いつも参加するのを楽しみにしていて、わが子が普段なかなかできない貴重な体験を大学ですることができているというフィードバックをもらっています。木曜の放課後とは別に、アートラボの拡大版として、土曜日に千代田区以外からの子どもたちも参加できる機会も設けました。夏には、ウクライナから来ている子どもたちも参加して大きな絵を描きました。






千代田クリエイティブ・アートラボの様子とさまざまな作品